

髄膜播種をきたした再発乳癌の1例

まきのよしなり¹⁾ 藤井としゆき²⁾ おおもとやすすけ³⁾
 もんまひろゆき⁴⁾ いがらしまさひこ²⁾

キーワード：乳癌，髄膜転移，髄膜播種

要 旨

本邦では比較的稀な髄膜播種をきたした再発乳癌症例を経験した。症例は63歳，閉経後女性，1999年12月左乳癌で胸筋温存乳房切除術を行った。2004年4月頃から血中CEA値が漸増し，2005年8月骨シンチで多発性骨転移を指摘された。同時に頭痛と嘔吐が出現し，造影MRIと髄液細胞診で乳癌再発による髄膜播種症と診断した。治療内容はMethotrexate (MTX)，Cytarabine (Ara-C)，Prednisolone (PSL)の髄注とPaclitaxelの併用化学療法，骨転移に対してPamidronateを投与した。予定投与は病態悪化で何度か中止を余儀なくされたが，頭痛の消失によるQOL改善と髄液及び血中CEA値の低下がみられた。最終的に髄膜播種症増悪のため診断後316日目に死亡した。本疾患は進行性の予後不良な疾患で有効な治療法がなく，今後本邦で症例の増加が予想されることから，有効な治療法の確立が急務であると考えられた。

はじめに

乳癌の転移は広範で，その1つに髄膜転移による髄膜播種症がある。乳癌の転移による髄膜播種症は本邦では比較的稀で，詳細な報告例は少ない。本疾患は多彩な症状がみられ，極めて予後不良で，有効な治療法が無いのが現状である。我々

は乳癌術後経過観察中に髄膜播種症をきたした1例を診断治療する経験を得たので，自験例及び本邦の報告例を参考に文献的考察を含めて報告する。

症 例

患者：63歳，女性。

主訴：頭痛，嘔吐。

既往歴：1999年12月に左乳癌に対し，左胸筋温存乳房切除術（Bt+Ax）を施行した。

乳癌病理組織学的所見：腫瘍径は4.5×2.0 cm 大で皮膚浸潤あり，組織型は硬癌であった。切除断

Yoshinari MAKINO et al.

1) 松江生協病院外科

2) 益田地域医療センター医師会病院外科

3) 津和野共存病院放射線科

4) 出雲市立総合医療センター外科

連絡先：〒690-0017 松江市西津田8-8-8